

保育者の保育意識に関する研究

中地万里子* 橋口英俊* 後藤嘉余子* 川合貞子* 高橋裕子*

(昭和56年9月30日受理)

A Study of Ideas about Early Childhood Education and Care on the Part of Teachers

Mariko NAKACHI, Hidetoshi HASHIGUCHI, Kayoko Gotō,
Teiko KAWAI, and Yūko TAKAHASHI

(Received September 30, 1981)

I 問題の所在

人格形成における乳幼児期の経験の重要性については、従来から、幾多の基礎的研究によって貴重な示唆が与えられている。フロイト (Freud, s) の精神分析的理論や、ローレンツ (Lorenz, k) の刻印づけ (imprinting) の現象とその臨界期 (Critical period) の指摘等は、その代表的な例としてよく知られている。経験的にも「三つ児の魂、百まで」「雀百まで踊り忘れず」の格言、ことわざが物語るように、古くから幼少期の生活が子どもの将来に大きな影響を及ぼすことが知られ、子育ての警鐘として言い伝えられてきた。

このような立場に立つとき、日々乳幼児に接し、その保育にたずさわる保育者の意識や行動は、家庭における両親・家族のそれとともに、子どもの生活のあらゆる問題に直接間接にかかわりを持ち、有形無形の反映をみせて、そのパーソナリティの発達に重大な意義をもつことが考えられる。本研究は、このような見地から、保育者の問題に焦点を合わせその意識や生活の実態にできるだけ接近し、そこから、乳幼児保育のあり方や、保育者養成の問題に、直接的な示唆と展望を得ることを目的とするものである。具体的には、保育所や幼稚園で保育を担当する保育者の、①勤務条件とそれに対する意識、②当面する悩みや養成校への要望、③保育対象の乳幼児とその父母に対する意識、④保育者観について、などの実態をとおして、次の3つの問題への前進的な見直しの糸口を見出したいと考えた。⑤乳幼児保育の制度や組織、⑥保育内容や保育の方法、⑦保育者養成の制度やカリキュ

ラムについて。これらの問題は、いずれも従前から問われ続けてきた問題であるが、現場の保育者の意識や保育行動の実態の中に、その本質に迫る何らかの手掛りが得られればというのがわれわれの願いである。また、それぞれが、たまたま保育者養成にたずさわっていることにかんがみ、その結果をたえずフィードバックしながら、一連の環の中で、より現実の保育や社会に還元していければと願っている。

II 研究方法

自由記述を主とした質問紙法による。対象は、本学家政学部児童学科と短大保育科の卒業生、第1次調査、第2次調査の概要は次の通りである。

1. 第1次調査

昭和50年12月、幼・小教諭の免許および保育資格をもつ、家政学部児童学科(昭和41年~50年、512名)、短大保育科(昭和39年~50年、2013名)の卒業生を対象に、卒業後の職歴、生活歴、保育、教育に関する意見について、自由記述を骨子とした質問紙調査を行なった。この時点では、主として卒業生の卒業後の動向を把握することを目的としたので、趣旨説明の依頼状とともに、葉書1枚大の簡単な調査票を卒業生名簿に記載された住所宛送付した。転居後の住所を同窓会に届けていない卒業生も少なくなく、回収率は大学児童学科29.3%、短大保育科26.3%であった。

2. 第2次調査

第1次調査の資料をもとに、その内包する問題を一層掘り下げるために、まず、52年4月、回答者のグループで研究会をもち、それらの結果をふまえて、引き続き53年3月・第1次調査の回答者および、その後の卒業生全

表1 調査対象

卒業年	学部（児童学）			学部（児童教育）			短大（保育科）			回答数 計
	送付数	回答数	回収率(%)	送付数	回答数	回収率(%)	送付数	回答数	回収率(%)	
S39							14	4	28.6	4
40							4	1	25.0	1
41	2	0	0				20	1	5.0	1
42	11	4	36.4				31	10	32.3	14
43	6	2	33.3				43	4	2.3	6
44	7	1	14.3				51	8	15.7	9
45	13	4	30.8				50	13	26.0	17
46	13	4	30.8				48	7	14.6	11
47	10	3	30.0				68	13	19.1	16
48	19	4	21.2				57	15	26.3	19
49	0	0	0				51	9	17.6	9
50	11	1	9.1	16	1	6.2	54	11	20.4	13
51	45	6	13.3	51	5	9.8	223	14	6.3	25
52	59	14	23.7	69	7	10.1	223	24	10.8	45
計	196	43	21.9	136	13	9.6	937	134	14.3	190

員を対象に、保育者の生活と保育意識に関して、自由記述を主とした第2次の質問紙調査を行なった。対象の内訳は、表1のとおりである。質問項目の主なものは次の通りである。

- ・保育時間について
 - ・1日の保育時間
 - ・保育時間についての意見感想
- ・勤務時間について
 - ・通常の勤務時間
 - ・勤務時間についての意見感想
- ・給料について
 - ・1ヶ月の税込み給料額（本棒と手当）
 - ・給料に満足しているか、意見
- ・近頃子どもについて感じていること、望むこと。
- ・近頃の母親について感じていること、望むこと。
- ・近頃の父親について感じていること、望むこと。
- ・理想とする教育者・保育者像
- ・小学校教諭・幼稚園教諭・保育養成に関して、母校への意見、希望（在学中の授業内容 実習 後輩に対して）
- ・その他の意見・悩み

III 保育者の生活と保育意識

第1次調査の結果からは、卒業生の卒業後の就職状況の変遷と、調査時点での在職状況、卒業後の転職の状況と乳幼児保育の現状についての意見、感想などを、卒業後7年以上12年未満、3年以上7年未満、3年未満の3グループに分けて整理し、その生活の実態や保育観との関連で考察した。その内容には1960年代半ばから約12年間の社会状況の変化が色濃く反映している一面があり、現場の保育者や乳幼児を育てる母親の立場から指摘される切実な問題や当面する問題への現実的な提案なども含まれている。以上の内容については、すでに、保育内容の研究(1)²⁾、および、保育者の適応に関する研究(1)³⁾において報告したので、ここでは省略する。

1. 保育者の生活と悩み

保育者は、自己の職業生活についてどのように考えているか、勤務時間、給料などのような、より生活に密着した問題および保育者としての全般的な満足度や悩み、そして、調査票を送った養成校に対しての要望などを中心に具体的資料をとおして考察する。分析に当たっては、卒業後の年数（3年以上、3年未満）、所属（幼稚園、

保育所, その他) 別に集計した。

(1) 生活に対する満足度

1) 勤務時間について

平常の勤務時間を所属別に概観すると, 表2のように全体的傾向として8~9時間が多く, 保育所の場合, 土曜も平日と同一であるとの回答は25%強にみられた。しかし, 実情は, 超過勤務が一般的で, 行事等の前には一層顕著であることが特に私立幼稚園において指摘され,

表2 平日の勤務時間

時間	幼稚園		保育所		その他	全体
	公立	私立	公立	私立		
8:00未満	6(26.1)	5(14.3)	3(6.5)	1(12.5)	5(19.2)	20(14.5)
8:00~8:30	6(26.1)	17(48.6)	7(15.2)	2(25.0)	5(19.2)	37(26.8)
8:30~9:00	8(34.8)	7(20.0)	34(73.9)	1(12.5)	9(34.6)	59(42.8)
9:00~9:30	2(8.7)	4(11.4)	2(4.3)	4(50.0)	2(7.7)	14(10.1)
9:30~10:00						
10:00以上					2(7.7)	2(1.4)
不明		1(2.9)				1(0.7)
無記入	1(4.3)	1(2.9)			3(11.5)	5(3.6)
N	23	35	46	8	26	138

更に, 保育所では勤務時間即保育時間のため, 保育の準備, 研修, 事務処理が時間内に消化されず, 加えて特例保育による当番制長時間勤務は身体的疲労を増大する等の問題が挙げられている。一方, 現状に満足しているものは消極的満足を含め10~20%に過ぎず, 保育施設自体のもつ問題を理解しながらも, 規定にそった勤務条件への接近を要望しているものと考えられる。

2) 給料について

表3, 4は, 給料に対する満足度の程度を表わしたものである。大卒者の場合, 満足と不満がほぼ同率を占めるが, 短大卒者には一般に不満の割合が高い。反面, 3年未満群に満足であるとするものが保育所において認められることが注目される。不満の理由としては, 経験給の不明確さ, 職務内容との不均衡, 行政職との同一視, 地域的格差等が指摘され, 単に保育者個人の問題として解消し得ない側面がうかがわれる。

(2) 保育者としての満足度

1) 悩み要望について

保育者(経験者を含む)としての悩み, 要望, 意見等

表3 給料に対する満足感—大学卒業者—

	幼稚園		保育所		その他		全体	
	3年以上	3年未満	3年以上	3年未満	3年以上	3年未満	3年以上	3年未満
	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)
満足している	2(40.0)	1(9.1)		3(37.5)	1(50.0)	6(40.0)	3(33.3)	10(29.4)
概ね満足している	2(40.0)	1(9.1)				1(6.7)	2(22.2)	2(5.9)
満足ではないが止むを得ない			1(50.0)				1(11.1)	
少々不満である		1(9.1)				1(6.7)		2(5.9)
満足していない		4(36.4)		2(25.0)	1(50.0)	4(26.7)	1(11.1)	10(29.4)
本棒以外の点で不満がある	1(20.0)			1(12.5)			1(11.1)	1(2.9)
考えたことがない				2(25.0)				2(5.9)
その他			1(50.0)				1(11.1)	
無記入		4(36.4)				3(20.0)		7(20.6)
有職者数	5	11	2	8	2	15	9	34

表4 給料に対する満足感—短大卒業者—

	幼稚園		保育所		その他		全体	
	3年以上	3年未満	3年以上	3年未満	3年以上	3年未満	3年以上	3年未満
	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)
満足している	5(21.7)	1(5.3)	3(13.6)	5(22.7)	1(25.0)	1(20.0)	9(18.4)	7(15.2)
概ね満足している	2(8.7)	1(5.3)	1(4.5)	8(36.4)			3(6.1)	9(19.6)
満足ではないが止むを得ない	2(8.7)	3(15.8)	2(9.1)			1(20.0)	4(8.2)	4(8.7)
少々不満である			1(4.5)	1(4.5)	1(25.0)		2(4.1)	1(2.2)
満足していない	7(30.4)	6(31.6)	6(27.3)	4(18.2)		2(40.0)	13(26.5)	12(26.1)
本棒以外の点で不満がある	4(17.4)	4(21.1)	5(22.7)	3(13.6)			9(18.4)	7(15.2)
考えたことがない		1(5.3)						1(2.2)
その他			1(4.5)	1(4.5)			1(2.0)	1(2.2)
無記入	3(13.0)	3(15.8)	3(13.6)		2(50.0)	1(20.0)	8(16.3)	4(8.7)
有職者数	23	19	22	22	4	5	49	46

表5 保育者の悩み・意見・要望等—大学卒業者—

	幼稚園		保育所		その他		全体	
	3年以上	3年未満	3年以上	3年未満	3年以上	3年未満	3年以上	3年未満
	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)
職能についての悩み,その他保育者自身の問題に関するもの	3(60.0)	3(27.3)	3(150.0)	4(50.0)	6(40.0)	3(20.0)	12(54.5)	10(29.4)
主として施設内の人的・物的要因に関するもの	2(40.0)	1(9.1)					2(9.1)	1(2.9)
幼稚園・保育所等の保育のあり方に関するもの				1(12.5)	1(6.7)		1(4.5)	1(2.9)
実習生の指導に関するもの	3(60.0)	1(9.1)				3(20.0)	3(13.6)	4(11.8)
養成校の教育に関するもの	1(20.0)	10(90.9)	3(150.0)	7(87.5)	7(46.7)	22(146.7)	11(50.0)	39(114.7)
研修,再教育に関するもの	2(40.0)		1(50.0)		2(13.3)		5(22.7)	
その他	1(20.0)				3(20.0)		4(18.2)	
無記入	1(20.0)	3(27.3)		2(25.0)	3(20.0)	3(20.0)	4(18.2)	8(23.5)
回答者数	5	11	2	8	15	15	22	34

注) 1人で2件以上回答しているので100%以上となっている。(以下同様)

表6 保育者の悩み・意見・要望等—短大卒業者—

	幼稚園		保育所		その他		全体	
	3年以上	3年未満	3年以上	3年未満	3年以上	3年未満	3年以上	3年未満
	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)
職能についての悩み,その他保育者自身の問題に関するもの	14(60.9)	11(57.9)	11(50.0)	14(63.6)	11(27.5)	3(37.5)	36(42.4)	28(57.1)
主として施設内の人的・物的要因に関するもの		7(36.8)	8(36.4)	7(31.8)	1(2.5)		9(10.6)	14(28.6)
幼稚園・保育所等の保育のあり方に関するもの	2(8.7)		3(13.6)	4(18.2)	2(5.0)	2(25.0)	7(8.2)	6(12.2)
実習生の指導に関するもの	6(26.1)	2(10.5)	4(18.2)	3(13.6)	1(2.5)		11(12.9)	5(10.2)
養成校の教育に関するもの	21(91.3)	16(84.2)	16(72.7)	13(59.1)	21(52.5)	7(87.5)	58(68.2)	36(73.5)
研修,再教育に関するもの	4(17.4)	3(15.8)	4(18.2)	3(13.6)	2(5.0)		10(11.8)	6(12.2)
その他	1(4.3)			2(9.1)	2(5.0)	1(12.5)	3(3.5)	3(6.1)
無記入	3(13.0)		2(9.1)	2(9.1)	7(17.5)	1(12.5)	12(14.1)	3(6.1)
回答者数	23	19	22	22	40	8	85	49

表7 現状における満足度—大学卒業者—

満足度	幼稚園		保育所		その他		全体	
	3年以上	3年未満	3年以上	3年未満	3年以上	3年未満	3年以上	3年未満
	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)
2	2(40.0)			1(12.5)		1(6.7)	2(22.2)	2(5.9)
1		4(36.4)		1(12.5)		3(20.0)		8(23.5)
0	2(40.0)	2(18.2)	1(50.0)	1(12.5)	1(50.0)	4(26.7)	4(44.4)	7(20.6)
-1		2(18.2)		3(37.5)	1(50.0)	7(46.7)	1(11.1)	12(35.3)
-2	1(20.0)	2(18.2)	1(50.0)	2(25.0)			2(22.2)	4(11.8)
-3		1(9.1)						1(2.9)

表8 現状における満足度—短大卒業者—

満足度	幼稚園		保育所		その他		全体	
	3年以上	3年未満	3年以上	3年未満	3年以上	3年未満	3年以上	3年未満
	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)	F(%)
2	2(8.7)						2(4.1)	
1	6(26.1)	4(21.1)	3(13.6)	2(9.1)	2(50.0)		11(22.4)	6(13.0)
0	3(13.0)	3(15.8)	3(13.6)	5(22.7)	1(25.0)	2(40.0)	7(14.3)	10(21.7)
-1	5(21.7)	6(31.6)	12(54.5)	9(40.9)		2(40.0)	17(34.7)	17(37.0)
-2	4(17.4)	4(21.1)	3(13.6)	5(22.7)		1(20.0)	7(14.3)	10(21.7)
-3	2(8.7)	2(10.5)	1(4.5)	1(4.5)			3(6.1)	3(6.5)
無記入	1(4.3)				1(25.0)		2(4.1)	

に関する自由記述による回答をまとめたものが表5, 6である。研究会のための保育に陥りやすい、教材研究が不十分等、保育者自身の問題ならびに自己の経験に基づく養成校への要望が大半を占め、加えて3年以上の場合には、実習生の意識、技術の低下のような実習生指導に関するものが、特に幼稚園において指摘されている。また、職場の人間関係については、経験年数、立場により、保育者間の調整が難しい、和の大切さを痛感しているといった視点の相違がみられる点に留意したい。なお、これら多岐にわたる悩み、要望を保育者が抱えているということは、むしろ、保育に対する問題点を意識し、よりよくしていこうと考える積極的姿勢を物語るものともいえよう。

2) 現状への満足度

有職者を対象に、現状への適応状況を、満足度という観点から、生活状況、悩み、要望等の具体的記述を通して評価したのが表7, 8である。概して、現状に満足していないものが多い。大卒、短大卒とも有意差は認められなかったが、幼稚園勤務者より保育所勤務者に3年以上勤務した者より3年未満に、満足度の低さがうかがわれる。具体的にみると、3年以上では、保育の難しさを痛感しながらも、生甲斐を覚える(幼)、意欲のない実習生は指導しにくい(幼)、研修の時間がとれない(保)、等が挙げられ、3年未満には、人間関係が難しい(幼)、仕事が多すぎる(幼)、保育所は子どもを預かるころという考えが多い(保)、保育時間の関係から話し合いの機会が得難い(保)、といった問題が提起されている。こうした傾向は、保育者自身の保育に対する直接的な悩みのみならず、保育施設自体に内在する諸問題から派生する悩みを持ち、特に保育所の場合、ある程度の経験を重ねることによっても解決し難い問題の存在することが推測される。第1次調査による転退職の状況から考えると、最近の職場環境が、就職難のため転職等の可能性が低下したことも、職歴3年未満の若い保育者に、現状への不満をもたらす一因となっていると考えられる。保育者の当面する問題については、社会状況の影響が職場環境に変化をもたらす、その要因が保育者の生活に反映するところが小さくない。第2次調査以後、すでに3年を経ている現在、保育界では幼児人口の減少やベビーホテル問題などがクローズアップされており、保育施設には経営上の新しい問題も出現していることを考えるとき、現場の保育者の適応問題には、また新たな今日の問題が

表9 子どもについて

カテゴリー	全体 F(%)	幼稚園 F(%)	保育所 F(%)	その他施設 F(%)	家庭・その他 F(%)
遊びの問題	63 (33.2)	22 (37.3)	17 (31.5)	7 (38.9)	17 (28.8)
物がないと遊べず、自分で遊びをつくり出せない	27 (42.9)	7 (31.8)	8 (47.1)	5 (71.4)	7 (41.2)
室内遊びが多く、泥まみれでのいたずらが少ない	18 (28.6)	7 (31.8)	5 (23.5)	1 (14.3)	6 (35.3)
友だちと遊べない	7 (11.1)	5 (22.7)	0 (17.7)	1 (14.3)	1 (5.9)
次々と遊びが変わってしまう	4 (6.4)	1 (4.6)	3 (17.7)	0 (14.3)	0 (5.9)
遊ぶ場所がない	7 (11.1)	2 (9.1)	2 (11.8)	0 (14.3)	3 (17.7)
依頼心が強く、自主性、忍耐力に欠ける	50 (26.3)	23 (39.0)	14 (25.9)	6 (33.3)	7 (11.9)
テレビ・マンガの影響を強く受けている	31 (16.3)	10 (17.0)	16 (29.6)	3 (16.7)	2 (3.2)
知識ばかり豊富で行動がともなわない	25 (13.2)	12 (20.3)	5 (9.3)	1 (5.6)	7 (11.9)
簡単なあいさつや返事ができない	18 (9.5)	9 (15.3)	2 (3.7)	3 (16.7)	4 (6.8)
型にはまった子	13 (6.8)	5 (8.5)	3 (5.6)	1 (5.6)	4 (6.8)
明るく素直で物おじせず、おっとりしている	13 (6.8)	6 (10.2)	4 (7.4)	2 (11.1)	1 (1.7)
体力がない	11 (5.8)	5 (8.5)	4 (7.4)	1 (5.6)	1 (1.7)
夢がなく現実的である	8 (4.2)	2 (3.4)	3 (5.6)	1 (5.6)	2 (3.4)
物を大切にしない	7 (3.7)	1 (1.7)	0 (16.7)	3 (16.7)	3 (5.1)
自己表現することが苦手である	6 (3.2)	2 (3.4)	3 (5.6)	1 (5.6)	0 (1.7)
自律的で泣く子が少ない	6 (3.2)	3 (5.1)	2 (3.7)	0 (16.7)	1 (1.7)
その他	12 (6.3)	4 (6.8)	5 (9.3)	2 (11.1)	1 (1.7)
無答	33 (17.4)	3 (5.1)	5 (9.3)	1 (5.6)	24 (40.7)
計	N=190 (155.9)	N=59 (181.6)	N=54 (153.9)	N=18 (178.1)	N=59 (127.3)

表10 母親について

カテゴリー	全 体 F(%)	幼稚園 F(%)	保育所 F(%)	その他 施設 F(%)	家庭・ その他 F(%)
過保護である	61 (32.1)	26 (44.1)	16 (29.6)	1 (5.6)	18 (30.6)
すべて学校・幼稚園・保育所まかせ	24 (12.6)	4 (6.8)	17 (31.5)	2 (11.1)	1 (1.7)
遊びやしつけよりも勉強させることを第1に考える	23 (12.1)	7 (11.9)	7 (13.0)	1 (5.6)	8 (13.6)
母親意識がうすく、子どもとの接触にあたかも欠ける	22 (11.6)	6 (10.2)	10 (18.5)	5 (27.8)	1 (1.7)
自分の子どもにしか目を向けない	21 (11.1)	11 (18.6)	4 (7.4)	2 (11.1)	4 (6.8)
自分勝手な親	16 (8.4)	5 (8.5)	9 (16.7)	1 (5.6)	1 (1.7)
子どもに関心を持ちすぎる親と無関心な親との差が大きい	13 (6.8)	5 (8.5)	4 (7.4)	3 (16.7)	1 (1.7)
子どもの個性や特質を尊重重しない	21 (6.3)	4 (6.8)	5 (5.6)	1 (5.6)	4 (6.8)
しつけに一貫性がない	11 (5.8)	5 (8.5)	2 (3.7)	0	4 (6.8)
子どもについてしっかりした考えを持ち保育に熱心である	10 (5.3)	3 (5.1)	2 (3.7)	2 (11.1)	3 (5.1)
親同志の親しきがない	6 (3.2)	1 (1.7)	3 (5.6)	2 (11.1)	0
教師に対しての信頼感がうすい	5 (2.6)	5 (8.5)	0	0	0
その他	16 (8.4)	6 (10.2)	5 (9.3)	1 (5.6)	4 (6.8)
無 答	26 (13.7)	2 (3.4)	3 (5.6)	1 (5.6)	20 (33.9)
計	N=190 (140.0)	N=59 (152.8)	N=54 (157.6)	N=18 (122.5)	N=59 (117.2)

生起していることが予想される。保育者の適応状況は、その保育する乳幼児の適応状況に密接につながり、その発達を規定することにつながるため、今後ともよりよい適応への手掛りを探りたい。

2. 保育者の期待する子ども像、父母像

保育者が描く子ども像、父母像は、ある意味では保育者自身の投影でもある。このような観点から、われわれは、保育者の子どもや父母に対するイメージを通して保育者自身の保育に対する構え(保育観、願いなど)に接近しようと試みた。表9～11は、自由記述による回答をカテゴリー化し、保育者の所属別に区分集計した結果である。いずれも、現実の子どもや父母の姿について、保育者が、受けとめているイメージである。以下、それぞれについて考察する。

(1) 子どもについて

全体的傾向をみると、第1に遊びについての問題をあげる保育者が30～40%あり、おもちゃや大人の介入がないと遊べない、“遊びを知らない”とする者が多く、次

表11 父親について

カテゴリー	全 体 F(%)	幼稚園 F(%)	保育所 F(%)	その他 施設 F(%)	家庭・ その他 F(%)
子どものことは母親まかせてある	43 (22.6)	12 (20.0)	14 (25.9)	7 (38.9)	10 (17.0)
マイホーム的で甘い	37 (19.5)	15 (25.0)	9 (16.7)	4 (22.2)	9 (15.3)
育児に協力する父親が多くなり望ましい	16 (8.4)	3 (5.0)	10 (18.5)	1 (5.6)	2 (3.4)
教育に対し協力的で理解しようとしている	12 (6.3)	7 (11.7)	3 (5.6)	0	2 (3.4)
子どもと接触する時間が少ない	12 (6.3)	4 (6.7)	1 (1.9)	3 (16.7)	4 (6.8)
父親としての威厳がない	10 (5.3)	3 (5.0)	5 (9.3)	0	2 (3.4)
広い視野で子どもをみている	7 (3.7)	4 (6.7)	1 (1.9)	1 (5.6)	1 (1.7)
子どもと遊ぶ父親が多くなり良い	5 (2.6)	3 (5.0)	0	0	2 (3.4)
父親との接触が少なくわからない	13 (6.8)	4 (6.7)	6 (11.1)	3 (16.7)	0
その他	6 (3.2)	1 (1.7)	1 (1.9)	1 (5.6)	3 (5.1)
無 答	44 (23.2)	19 (16.7)	7 (13.0)	1 (11.1)	25 (42.4)
計	N=190 (107.9)	N=59 (110.2)	N=54 (105.8)	N=18 (122.4)	N=59 (101.9)

いで、いたずらをする子どもが少ない、“ガキ大将がない”等、遊びに対しての積極的な参加や工夫がなく、のびのびと十分にエネルギーを出きっていない子どもが多いと感じている。第2に、自分の思うようにならないとすぐかんしゃくをおこす、依頼心の強さや甘えのエゴイズムの目立つ子がみられる、すぐあきらめてしまう。根気がない、など、性格的に依頼心が強く、自主性、忍耐力がないと感じており、その傾向は、保育所より幼稚園に著しい。反面頻度は低いが、自律的で親から離れても泣かずに行動する、など、自律的な子どもの姿を認めている保育者もみられる。第3に、テレビ・マンガの影響の強い子どもが多いと感じており、具体的には、流行語、流行歌をさかんに口にする“死ねばいい”“殺してしまう”などのことばが気になる。反応は敏感だが、じっくりと考えて行動できない、ことは数が多くなっている、などがあげられる。第4は、頭でっかちの子どもが多い、字を書いたり読んだりできる子どもが多いが、生活習慣の自立が遅れがち、など知識に行動がともなわない子どもが多いと感じており、保育所より幼稚園に多い。その他、しつけがなされていない、体力がない、などがみられた。

(2) 母親について

表12 保育者としての態度をあげたもの

カテゴリー	幼稚園 F (%) N=53	保育所 F (%) N=49	その他の施設 F (%) N=17	家庭・その他 F (%) N=35	計 F (%) N=154					
自分なりの保育観を持つ	6 (11.3)	1 (2.0)	2 (11.8)	1 (2.1)	10 (6.5)					
信念を持つ	2 (3.8)	10 (18.9)	4 (8.2)	6 (17.1)	7 (20.0)	19 (12.3)	32 (20.8)			
初心を忘れない	2 (3.8)	1 (2.0)	0	0	3 (1.9)					
子ども第一に考える	0	2 (4.1)	2 (11.8)	6 (17.1)	10 (6.5)					
子どもと共に成長する	3 (5.7)	4	3 (6.1)	9	2 (11.8)	6	1 (2.9)	10	9 (5.8)	30
行事やデイリープロに追 われない保育をする	1 (1.9)	(7.5)	1 (2.0)	(18.4)	0	(35.3)	1 (2.9)	(28.6)	3 (1.9)	(19.5)
子どもの将来のことを考 えて保育をする	1 (1.9)	3 (6.1)	2 (11.8)	2 (5.7)	8 (5.2)					
自発性のある子どもにする	2 (3.8)	4 (8.2)	1 (5.9)	1 (2.9)	8 (5.2)					
良し悪しの判断のできる 子どもにする	2 (3.8)	8 (15.1)	1 (2.0)	12 (24.5)	0	4 (23.5)	0	3 (8.6)	3 (1.9)	27 (17.5)
その他保育の目的として の子ども像	4 (7.5)	7 (14.3)	3 (17.6)	2 (5.7)	16 (10.4)					
研究心を持つ	4 (7.5)	5	3 (6.1)	3	0	1	4 (11.4)	4	11 (7.1)	13
保育技術を磨く	1 (1.9)	(9.4)	0	(6.1)	1 (5.9)	(5.9)	0	(11.4)	2 (1.3)	(8.4)
集団を生かした保育をする	0	0	1 (5.9)	2 (5.7)	3 (1.9)					
その他(クラスの人数を減らす等)	1 (1.9)	1 (2.0)	0	1 (2.9)	3 (1.9)					
計	29 (54.7)	31 (63.3)	21 (123.5)	27 (77.1)	108 (70.1)					

保育所と幼稚園では、ややその傾向が異なっている。保育所では、“保育所をロッカー的に考えている”しつけもすべて園にまかせればなし、時間や規則を平気で破る、子どもと接する時間が少ない、などの例にみられるように身勝手なあたかさない母親像が過保護的な母親像とともに多い。一方幼稚園では、過保護で視野が狭く、自分の子どもにしか目が向けられず、しつけ、遊びより勉強第1と考える母親像を持っている。

(3) 父親について

子どものことは母親まかせで、マイホーム型の甘い父親が多いと感じている者が多数であるが、一方、育児、教育にも関心を持ち、協力する父親が増加し、望ましいと受けとめている側面も見られる。

(4) 保育者の期待する子ども像、父母像

以上により、保育者が期待する子どもや父母の姿をまとめてみると、まず、父親には、子どもに接する時間をもち、けじめのはっきりした強さと、広い視野を持つこ

と、母親に対しては、子どもを理解し、単なる甘やかしではない暖かい愛情あるしつけにより子どもの自立への手助けをしっかりとすることを望み、その父母に育まれることを基盤として、遊びを通して物事に意欲的に取り組み豊かな自己実現ができ、思いやりのある人間関係を創造する子どもを願っていることがうかがえる。

3. 保育者がめざす保育者像

保育者が、描く保育者の理想像について、自由記述による回答を分析して、まずその内容を大きく3つの観点から分類し、さらに各々に関して細かくカテゴライズして、保育者の所属別に区分集計した結果が表13～15である。

(1) 保育者としての態度をあげたもの

全体の約70%が何らかの意味でこの範疇に入る回答をしている。しかし、これらの記述には、具体的にどのような保育観が望ましいか、また、持つべき信念についての内容はなにかが明らかでないものが多い。ささやかでも、自分なりの考えを持って保育にあたり、専門職として仕

表13 子どもとの関わり方を中心としたもの

カテゴリー	幼稚園 F (%) N=53	保育所 F (%) N=49	その他の施設 F (%) N=17	家庭・その他 F (%) N=35	計 F (%) N=154
子どもの立場に立つ	16 (30.2)	17 (41.2)	7 (41.2)	8 (22.9)	48 (31.2)
子ども1人1人の個性をのばす	8 (15.1)	12 (24.5)	3 (17.6)	9 (25.7)	32 (20.8)
子どもをきめつけない	0 (0.0)	2 (4.1)	1 (5.9)	3 (8.6)	6 (3.9)
子どもといっしょに遊ぶ	7 (13.2)	9 (18.4)	6 (35.3)	9 (25.7)	30 (20.1)
余裕を持って保育する	1 (1.9)	4 (8.2)	0	3 (8.6)	8 (5.2)
子どもに対して平等に	2 (3.8)	1 (2.0)	0	2 (5.7)	5 (3.2)
やさしさ、きびしさ、おもいやりを持って子どもに接する	3 (5.7)	1 (2.0)	2 (11.8)	2 (5.7)	8 (5.2)
感情的にでなく子どもに接する	1 (1.9)	1 (2.0)	1 (5.9)	1 (2.9)	4 (2.6)
その他	0	1 (2.0)	0	1 (2.9)	2 (1.3)
計	38 (71.7)	48 (98.0)	20 (117.6)	38 (108.6)	144 (93.5)

表14 保育者としての適性や生き方に関するもの

カテゴリー	幼稚園 F (%) N=53	保育所 F (%) N=49	その他の施設 F (%) N=17	家庭・その他 F (%) N=35	計 F (%) N=154
明るい人柄の人	6 (11.3)	4 (8.2)	0	3 (8.6)	13 (8.4)
感性の豊かな人	3 (5.7)	3 (6.1)	1 (5.9)	4 (11.4)	11 (7.1)
信頼される人 (子ども、親、同僚)	7 (13.2)	7 (14.3)	4 (23.5)	4 (11.4)	22 (14.3)
理性・判断力がある人	4 (7.5)	2 (4.1)	0	1 (2.9)	7 (4.5)
思いやりがある人	3 (5.7)	3 (6.1)	0	0	6 (3.9)
健康な人	2 (3.8)	1 (2.0)	0	0	3 (1.9)
保育の面以外にも自分を 広げる	12 (22.6)	4 (8.2)	1 (5.9)	1 (2.9)	18 (11.7)
自分自身の生き方を確立 している	3 (5.7)	2 (4.1)	0	3 (8.6)	5 (3.2)
その他(具体的人物名等)	1 (1.9)	0 (0.0)	0	2 (5.7)	3 (1.9)
計	41 (77.4)	26 (53.1)	6 (35.3)	15 (42.9)	88 (57.1)

注) 対象者190名のうち無答の者は除外した。

事に信念と情熱を傾けたいと願っている。特に小学校勤務者に“信念を持つ”の回答が多いことも注目される。また、子どもを中心においた保育を理想とした保育者も多く(20%)子どもを愛し、理解し、子どもの状態に応じた保育計画が立てられること、子どもの将来への見通しを持てることなどをめざしている。一方では、常に研究心を持ち、何か1つでも得意な技術をもって保育に当たりたいと思っている。

(2) 子どもとの関わり方を中心としたもの

この範疇の回答をしたものは、全体の93.5%で、ほとんどの保育者は、子どもとの関わりの中に理想像をおいている。その中では、第1に子どもの立場に立って考えたり対処する保育者像をとらえた者が最も多く、次いで個性をのばす、一緒に遊ぶとなっている。その他、成績などの一面だけで子どもを判断しない。優しさと厳しさをもって保育する。どの子どもにも平等に接する。感情的に怒るのでなく叱ることのできる保育者などをあげている。このように、子どもと接する場合の関わり方に理想をおいた保育者は、幼稚園勤務者以外に多いことも興味深い。

(3) 保育者としての適性や生き方に関するもの

全体の57%が保育者としての理想像に、その適性やパーソナリティに関した要因をあげている。これらは、直接保育や子どもに密着した形での理想像ではなく、より広い視野に立って人間として巾広い円満な人格を保育者に期待したもので、専門性については明らかにされていないことに特徴がある。ニコニコと明るく元気、すなお、円満、常識的、のんき、おだやか、等の性格特性があげられ、柔軟な心、棒切れや花にも美しさを感じとり、感動できる等感性の豊かさや、保育以外でも経験を豊かにし、向上心をもって自分自身の成長を心がけ保育に還元しようとする生き方等があげられている。生き方などに関連した理想を持つ保育者は、特に幼稚園勤務者に多いことが注目される。

なお、大学卒、短大卒別に見ると、(1)(2)についてはほとんど差が認められないのに比し、(3)は短大卒45%、大学卒28%で明らかに短大卒が多くなっている。

保育者がめざす理想の保育者のイメージは、抽象的で具体性に欠けることが見られたが、この傾向が保育者という職種にみられる特質であるとするれば、その根拠はどう説明できるのであろうか。保育者の専門性とは何かという課題に迫るひとつの手がかりになり得るかどうかな

後の問題としたい。

Ⅳ 保育観形成の要因を探って

保育者の保育意識や具体的な保育行動は、乳幼児の生活に直接間接に大きな影響を与えるが、乳幼児やその父母の行動は、保育者の意識や態度に反映する。保育はこの相互関係の中での営みであり、その意味で、保育者の保育観形成には、現実に日々接している子どもやその父母の姿は重要な意味を持っている。また、保育者の職場環境のさまざまな要因も保育者の人生観に有形無形の影響を与えることが考えられる。そして保育者の保育意識の基礎として、その中核をなしているものは、保育者以前の人間性でありその価値観である。本研究の対象となった保育者は、われわれが所属する大学、短大で養成された保育者である。そこには、木学の教育の投影が見られるかもしれない。子どもの問題は、子どもを育てる大人の問題であることを考えるとき、あらゆる点で子どものモデルとなる保育者の生活を規定する価値観や、それを基礎に形作られその保育を方向づける保育観の形成要因を探ることは、保育者養成の重要な課題であると考えられる。今後は、この問題も含めて、乳幼児保育のあり方を研究していきたい。

おわりに

本研究は、昭和50年以來、東京家政大学児童学科の有志で続けてきた「保育研究」の一環をなすもので、本報告の部分は、特に、昭和54年度の特別研究費の交付を受けて行なった研究であります。ご配慮をいただいた大学当局に感謝の意を表します。研究は糸口を見つけたばかりで、更に具体的資料を集め、理論的裏付けを進めていかなければなりません。ご協力をいただいた卒業生各位、児童学科の先生方に心からお礼を申し上げます。

文 献

- 1) 土井正徳：性格はこうして作られる 誠信書房 1955
- 2) K・ローレンツ；日高敏隆訳：ソロモンの指輪 早川書房 1975
- 3) 山住正己；中江和恵編注：子育ての書2 平凡社 1976
- 4) 東京家政大学児童学科同短期大学部保育科：保育内容の研究(1) 東京家政大学児童学科 1977

- 5) 中地・橋口・後藤・川合・高橋：保育者の適応に
関する研究(1)(2) 日本保育学会第32回大会発表論文
集1979
- 6) 後藤・中地・橋口・川合・高橋：保育者の適応に
関する研究(3) 第21回日本教育心理学会総会発表論
文集 1979
- 7) 高橋・橋口・中地・後藤・川合：保育者の適応に
関する研究(4) 日本保育学会第33回大会発表論文
集 1980
-